

令和6年度第4回社会教育委員会議 日本民家園専門部会 議事録

- 1 開催日時 令和7年3月16日(日) 10:00~12:00
- 2 開催場所 かわさき宙と緑の科学館 2階学習室1
- 3 出席者 委員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、長谷川委員、柴田委員、服部委員、大泉委員、今委員、原田委員  
事務局 阿波園長、藤川係長、葉山係長、関主任、北澤職員

4 議題

- (1) 令和6年度事業評価について

- 5 傍聴者 0名

6 会議内容

- (1) 園長挨拶
- (2) 会議成立の確認、資料確認
- (3) 議事
- (4) 報告事項(事務局より説明)  
今後の予定について

7 議事内容

〈事業計画・評価シート 各項目の数値について〉

菅野委員：学校の申し込みはもう分かると思うが、3月末までの見通しとしてはどのようになるか。

藤川係長：2月末の数値から増えているのが5校くらいでそんなには増えていない。3月はあまり来ていないので、昨年よりは少なくなる。

〈1 保存・研究・展示・普及活動〉

- (1) 文化財の保存・調査研究の推進

野尻委員：3の「山下家・太田家耐震工事報告書」について「原稿編集委託調整中」とあるが、原稿が出て編集を委託するということか。それとも原稿から編集を委託するのか。

葉山係長：原稿の作成と編集を委託する。

阿波園長：こちらの項目については設計事務所と調整をしなくてはならない項目がある。編集の調整をかけたいが、設計事務所との調整が終わっていないという段階である。

服部委員：「1 文化財建造物維持管理の推進」になると思うが、佐々木家の屋根が傷んでいる。今後の予定としてはいつごろか。

阿波園長：茅葺きの葺き替えは、佐々木家と工藤家の劣化状況が激しいのは確認している。今後どちらを直すかという選定を行う。状況は把握しているので、今後調整していきたい。

大野副部長：このような説明をするときに毎年出している年次計画と将来計画の表をつけていただくとわかりやすい。管理の問題も出てくるので、必ずつけてください。  
佐々木家と工藤家の屋根の葺き替えについて、佐々木家はもう耐震工事が終わっているのですんなりできるが、工藤家は耐震と組み合わせてもやらないと単費でやることになるので、計画表を提示していただきたい。

閉会后事務局追記：

現状は、計画含め次の通り。

佐々木家・工藤家：耐震診断未対応、だが、キノコの繁茂影響から、葺替実施を急ぐ必要あり。

工藤家：耐震補強と同時に屋根葺替するには、耐震診断1年→実施設計2年→補助金申請1年と計5年後の工事着手となるため、現在の屋根状況から5年は持たないので、屋根葺替を先行させることとなり、単費での対応となる見込み。

菅野委員：今、作田家が完了し、井岡家の耐震工事をしているが、その次は設計や工事について書かれていない。

阿波園長：資料に入っておらず申し訳ない。次は江向家の設計に入り、その後本格的な耐震工事となる。

菅野委員：設計が進んでいるということか。

阿波園長：来年度の予算で設計をし、その後の流れにつなげていく。

柴田委員：建物の工事関係ではないが、山田家のうすなわで石引水が入るようにしている。唯一動いている水を展示している説明ポイントだが、故障している。予算の関係も

あると思うが、なんとか復旧してほしい。

葉山係長：予算がつき次第工事したいが、経緯を説明する。水道管が水漏れを起こした関係で、水道管を更新する工事があった。その際、うすなわにむけての分岐の部分もいじる必要があり、本管と枝分かれした部分の工事と2段階に分ける必要があり、本管を優先したため、枝分かれした管の接続が山田までできていないという状況。

柴田委員：大きな改良工事だとは理解しているが、会員からは仮設としてホースなどで一時的にできないかという意見ができています。水を流すことができればいいと思っています。

菅野委員：「大岡資料の写真目録データ入力完了」とあるが、将来的には冊子として刊行する予定はあるのか。

阿波園長：大岡資料の写真目録については、作業工程の一つとして行っている。資料として貴重なガラス乾板をスキャニングし、目録とリンクして検索ができるようにすることを目標にしている。エクセルの目録入力今年度完了した段階であり、将来的には使用できるようにしたい。

菅野委員：新規収蔵資料は何を入れたのか。

関主任：今年度の収蔵資料は南砺市の関係資料で漢方に使われる「クマノエ」とそれを製造するための道具である「クマノイホシ」を一括で受け入れた。旧所在地交流をしている南砺市の観光協会の方の祖父が熊の猟をしていた。自分で使ったクマノエが残っていて民家園で活用してほしいとのことで受け入れた。五箇山の関連の資料ということで正式に受け入れをして寄贈手続きをした。現在新規収蔵資料として展示をしている。

菅野委員：「日本昔話学会での発表」とあるが、これは園としての発表なのか、学芸員個人としての発表なのか。

阿波園長：学芸員の個人での発表だが、取り扱っているのは日本民家園の中で行っている昔ばなし公演を題材とした発表である。

野尻委員：学芸員の学会出席は業務の扱いになるのか。

関主任：発表する立場で学会、シンポジウム、講演会に勤務の範囲で行ってよいという許可はもらっている。今回は民家園に関係がある内容だが、個人で発表している。

野尻委員：職専免ということか。

阿波園長：個人での活動。

高橋部会長：職免や出張で行く場合と個人で行く場合がある。重なることもあると思うが、これに載せる場合には職務で行った場合について載せるべき。線引した方が良い。前回は論文発表と書かれていたが、民家園について職務としてやっていることが明らかなものに限った方が良い。予算や勤務時間の関係もある。考えがあるかもしれないが、一般的にはそうだと思う。

野尻委員：「民家園だより発行」とあるが、これはいつもこの項目に入っていたか。直接建物のことではない。広報かなと思ったが、ここでいいのか。

藤川係長：広報の内容は、指定管理者に委託しているものが主である。民家園だよりは市の方で発行している。

高橋部会長：一般的には広報だと思うが、区分があるならこちらでも良い。再掲で両方に載せるという方法もあるので、検討してほしい。

大野副部会長：山下家・太田家の耐震工事報告書の委託調整状況の見込みはどうなのか。

阿波園長：こちらでできることというよりも、相手方の対応ができるかどうか。代替の事務所を探すなど、物理的にできるかどうかという見込みが立たない。

高橋部会長：今年度は令和4年度からの中期の目標の最終年にあたるので、中期目標の評価もやることになっていた。ここには令和4年度5年度の評価が出ていないので、中期の評価をどのように行うかが問題かと思うが、後日4年度5年度の評価と今年度の評価を合わせて、例えばBBAで最終年度でAになっていたらAとか、事務局と評価を書く我々で決めてもよいか。

藤川係長：本来はこの場で中期評価もお示しすべきだったが、今部会長に言っていただいた通り3年間について事務局と評価委員の皆様で協議させていただいて、その結果を後日皆様に共有したい。

高橋部会長：では、後日メールでみなさんに過去の評価を共有するかたちで。そこにコメントも入れてほしい。中期目標に関しての事務局の自己評価と課題とできていない点を書いてほしい。今日は6年度の評価をお願いします。目標水準と実績を見比べて今年度達成していれば、Bということで、挙手をお願いします。

大野副部会長：3を評価するのに山下家と太田家の報告書の調整の見込みはどうか。それ次第でだいぶ違ってくる。

阿波園長：こちらでできることというよりも相手方である設計事務所に対応できるかどうかなので、調整はしているが、代わりの設計事務所が見つかるかどうかなど、雲行きが怪しい部分も多く、Cもやむなしと考えている。

1 (1) - 1 A1 B9 C0  
2 A1 B9 C0  
3 A1 B9 C0

## (2) 展示の充実

菅野委員：評価が両方 B だが、比べるとプラスアルファでできている。評価の理由を聞きたい。

阿波園長：ほぼ達成していて、プラスアルファあるので A でもいいと思うが、自己評価なので厳しめに設定した。

高橋部会長：謙遜されたということですね。

阿波園長：緑化フェア期間中の無休開園というのは月曜日が本来休園日のところ開園した。生け花の実施は、11月1日の佳子内親王殿下の来園に合わせ、茶華道協会の全面的な協力をいただき、原家に盛大な生け花を展示した。その後11月3日の「民家園まつり」の民家園に一番来園者が来る日に生け花を楽しんでいただけた。

大野副部会長：1にある「アクセシビリティに関する研修」や民家案内についてももう少し詳しく知りたい。

関主任：NPO 法人エイブル・アート・ジャパンという団体が文化庁の助成を受けて、障害

のある方が博物館に行きやすい環境を作っていこうという活動をしている。「みんなでミュージアム」という活動を行っている。2023年のシンポジウムに参加したときに、「ぜひ民家園でも」とお願いしたら、2024年度にやりましょうということになった。どうせやるならボランティア向けの研修として実施しようということで11月6日に一緒に活動させていただいた。その中で車椅子を利用されている方、視覚障害者の方、聴覚障害者の方それぞれ3名の方が一緒に来園していただき、健常者も障害のある方も一緒に園内を回りながら、展示を理解するにはどうしたら良いのかという研修を実践的に半日行った。それに関連して、エイブル・アート・ジャパンの団体とかなり頻繁に連絡を取った。そこから派生をして来年度藤沢市の点字図書館が団体で来園したいと言う話が来た。研修の成果を活かして、実際に団体の方が来園したときにどのように話したら良いのかということ具体的に検討している。

大野副部長：大変貴重なことだと思う。

藤川係長：民家園のホームページに当日の様子動画が載っている。

服部委員：障害者じゃなくても、杖を持っている方がいる。そのような方が公開棟の床上に上がるときに杖をついてもよいのか。杖で床を傷つけてしまうので制限していると思うが、どのように対応したら良いのか。

阿波園長：実際そこまで制限してしまうと来園者も退屈である。今は様々な杖もあるので、そのあたりは配慮しても良いのではないかとというのが率直な意見。

服部委員：難しいとは思いますが、なるべく中に上がって見せてあげたい。そのへんの対応を検討してほしい。

柴田委員：アクセシビリティ研修の参加を炉端の会に呼びかけて、実際に接する機会を得て勉強になることは多々あった。民家園の施設状況が、バリアフリーとは真逆な施設。一歩家に入るにも大きな段差があり、部屋と部屋との間も段差がある。誰にでも博物館を見学していただけるというコンセプトは非常に良いが、我々が活動しているとき、いきなりそういう方が来られると、対応が難しい。1軒につき最低3名で活動している。車椅子の介助はボランティアの手だけでは足りない。火をほっておいて対応することが難しい。受け入れる施設にするには、関係者との連携を強化し、事前に連絡を取り合う、応援を出すなどしてほしい。勉強になったことは確かだが、運用するにあたって、現場だけではなく、施設全体でカバーできる体制を作してほしい。

高橋部会長：ボランティアさんの協力ありきでは進まないことだと思う。予約制や専門の活動部隊など、体制づくりを整えていかないと難しいところがある。ただ、世の中の流れはアクセシビリティを高める、みんながアクセスしやすくするというのが流れなので、民家園としてできることを検討してほしい。

服部委員：さわれる民家解説に向けた準備は具体的にどのようなことをしたのか。

関主任：今回のアクセシビリティ研修の流れの延長線にあった。具体的には視覚障害がある方、ない方も触って展示物を実際に体験したりすることで民家園や昔の暮らしについて理解する展示物を作っていきたい、そういった解説会をしたいといった目標が最終的にはある。実際どこからやったらいいのかという取っ掛かりとして今回アクセシビリティ研修を実施した。

服部委員：1は常設展示に関する評価になるのか、各古民家にある展示も含むのか。

高橋部会長：具体的には2が企画展なので、その他は1の方で考えれば良いのでは。

服部委員：古民家にある民具は炉端の人は掃除ができない(してはいけない)と言われている。壊してしまう可能性もあるかもしれないが、ホコリにまみれている。以前から思っているが、どうにか改善してほしい。今後の取組としてどう考えているか。

阿波園長：定期清掃という形で指定管理の業務に入っている。清掃の項目に仏壇などの収蔵品も含んでいる。特に汚れがひどい場合は定期清掃の方に指示を与えている。確かにチェックが足りない部分があるので、情報を集めて清掃をしていきたい。

高橋部会長：炉端の会の方に限らず、民具を拭いたり、触ったりしてはいけないという判断はどういうことなのか。

阿波園長：民具にもいろいろな種類があるので、特に壊れやすいものはこちらで清掃するようにしている。民具そのものの清掃は任せていない。

高橋部会長：個人的な感想だが、見てみるとすごく汚くなっているものがある。ボランティアの方が気づいたときに事務局に伝えれば、すぐに清掃や修復などの対応ができると良い。人数的に、マンパワー的に無理なのであれば、民具の触り方や使い方についてノウハウを共有して、こまめに清掃ができると良いのでは。指定管理の方は定期清掃などで触ることができるのか。

阿波園長：指定管理で触れるものは指定している。デリケートな民具は清掃されていない状態が続いている。

服部委員：10年以上ボランティアをやっているが、一向に改善されていないという現状から質問をした。都内などのいろいろな民家を見るが、どこもきれいになっている。他の場所と比べると恥ずかしいと感じるので、どうにか改善してほしい。

1 (2) - 1 A9 B1 C0  
2 A10 B0 C0

### (3) 教育普及活動の充実

今委員：学校の郷土室の資料の整備等で目標では1校で実績では2校ということで、先ほどの民具の維持管理の話があったと思うが、学校だとそれ以上に深刻。地域の方から頂いた大切な物なので、大事に扱わないといけないが、なにぶん素人なのでこのように1校でも2校でも支援して頂けるのはありがたい。今後も続けていただきたい。

高橋部会長：想定より多くなった理由はなにか、新たなところが増えたということか。

阿波園長：そうです。もともと目標に入っていた学校に加えて殿町小学校で行った。学校によって郷土資料室あるかどうかはあるが、殿町小学校さんは川崎区の学校で、大師河原の漁業関係の民俗資料があり、ご相談を頂いて民家園の学芸員が出張している。

菅野委員：これは民家園の資料を預かっていただいている小学校での展示か。

阿波園長：それは虹が丘小学校で、こちらはもともと学校にあったもの。

菅野委員：そのような依頼が次々とやってくるか。

関主任：まず、文化財課の方にご相談があって、民俗の学芸員がいた方がいいだろうということで、私と市民ミュージアムの歴史担当の学芸員が1名呼ばれて、文化財課に付き添って行った。行ったからにはしっかりとやらなければという思いだが、遠方なので本庁に行く機会があれば足を延ばすようにしている。細く長く続けていきたい。

柴田委員：いろんなイベントを企画・実施していると思うが、今年の正月イベントに参加し

た。炬端の会としてお手伝いできると思ったのはコマまわし。自分でもできなかったが、炬端の仲間の中には、できる人もいたので、もっと炬端の会全体に強くお声がけいただけると良い。

旧所在地交流事業について、南砺市の時にこきりこをやったが、物産展がなかったのはさみしい。是非、それぞれの交流先の物産展を行ってほしい。博物館で物を売るというのは難しいのかちょっと分からないが、来園者も喜ぶと思うので是非やってほしい。

菅野委員：学校関係で何点か。学芸員課程等の大学受入とは見学か？特別利用は実測のことか。高校の総合学習支援は具体的にどこに何を行ったのか。課題のところで教育普及事業中の危機管理が上がっているがこれは何かあったのか。所在地交流事業の実施の方針検討とあるが、具体的に何を考えているのか。

関主任：学芸員課程の受け入れは、授業の中で博物館を見学に来るというもの。これについては、学芸員の方で対応している。

藤川係長：特別利用は実測だけではなく、資料の閲覧などもあったので、今年度については大学と名の付く特別利用の件数を掲載している。

阿波園長：高等学校総合学習支援は、私立の学校から民家園の基本方針的な話ができないかと要請があった。見学と合わせて学習支援ということで実施した。生徒さんも大勢で来られたわけではなかった。

関主任：当日来たのは3名だった。

阿波園長：教育普及活動中の危機管理は、熱中症警戒アラートの発令件数が非常に増加しているので、猛暑の中での熱中症への対応などを考えていきたい。

旧所在地交流事業の実施方針の検討については、来年度、合掌造りが1995年に世界遺産に登録されて30周年なので、それに合わせた交流事業ができればと、今後の課題ということでいれさせていただいている。

菅野委員：主に南砺市ということか。

阿波園長：南砺市が来年は一番メインになってくるが、先ほどお話しがあった物産展とか今年度できなかったの由来年度実施できる方法があるかどうかなど、あとは南砺市で30周年のイベントをやる予定があるので、それと連携した企画展ができないかな

どを検討している。

服部委員：学校連携の充実でギガ端末の活用ということだが、実際に来て先生方に研修や講習をやったことはあるのか。

阿波園長：こちらには書いていないが、教頭会の研修会があった。バックヤードツアーを行った。バックヤードというのは民家園の中でも普段はなかなか足を踏み入れられない舞台裏のような場所で、船越の舞台の内部や太田家の焼損小屋など、民家園の舞台裏を理解する内容を設定した。教頭会研修のコースはいくつかあるようだが、当日は20人以上の教頭先生がいらっしやった。

服部委員：伝統工芸館の自主事業の充実のところで、私自身、観光協会に所属しており、観光協会でも生田緑地や民家園・伝統工芸館を皆さんに知ってもらえるように、ツアーを考えている。ご協力をいただきたい

長谷川委員：当日参加型体験事業のところで、井戸汲みや蚊帳などがあるが、子どもたちは生活のちょっとした体験をできるとすごくいい。洋式のトイレが多いので、和式のお便所体験なども取り入れられると、子どもたちもすごく喜ぶと思う。

原田委員：学校との連携事業で、中学校の職場体験が今年増えたと思うが、私は発信側が大変感謝している。先ほどあった学校資料室等の整備は、各学校困っているところがたくさんあるので、平中学校のことだが、文化財というか地域の方から「昔こういう農具を使っていた」と寄贈されているものがあるって、ちょっとほこりを取るだけでも壊れそうなものもたくさんあって、子どもたちにも触らせられないものもある。今回のように文化財課にお願いしてこのようにやっていただけるのか、そんなこと言われたら困るのか、お知恵を貸していただければ。今回のように文化財課に相談すれば対応していただけるのかどうか。

もう一点、伝統工芸館のところで、中期目標にもあるように藍染めに力を注いでいると思うが、実際には今年度の実績のところにも外国人の方でもスムーズに申し込みできるシステム作りや新しいものを作ってきたことが、1ページ目にある金額増につながっていったのか？

阿波園長：郷土資料室の話は、確かに文化財課から依頼があったので、学芸員を派遣したが、様々なイベントを民家園のなかでも対応する必要があるので、今後も派遣できるかというお約束はできかねる。今回の派遣先の郷土資料室にある大師河原の漁労具関係資料は川崎市の指定文化財の関連資料でもあるため、日程調整の上、派遣している。

藍染め体験のことにつきましては、緑化フェアで中央広場の方でいろいろなイベントをやっている、緑化フェアの方で藍染のグッズもあったので、その関係で昨年に比べて大幅に金額が増えている。

野尻委員：今回の資料で網掛けの目標水準と実績をみると、特に数値の面ではわかりやすく増えている。その中で市民活動団体との連携で、生田緑地マネジメント会議の回数が6回の予定が2回になっているが、皇室関係の記述があるがどれくらい前に入ってくるのか？

阿波園長：生田緑地マネジメント会議について、目標を下回っているが、民家園に関連した議題が出ているかどうかでも出席の回数が変わってくる。当初予定は5回ぐらいかと思っていた。

皇室関係のことでは、緑化フェアの日程はかなり前から決まっている。緑化祭については、フェアの中で必ず1回やることになっているが、様々な調整もあり、ご協力をお願いする団体にお知らせしたのが夏頃になった。交流する6団体についても、限られた方にしかお話しはしていない。

大野副部会長：民具に関する相談があった時に、どこに相談すればいいかという話は、おそらく文化財課に相談されると良いと思う。文化財課で地域文化財を発掘し顕彰する活動を推進しているので、地域のだれに相談するかというネットワークができ始めている。一度文化財課さんに相談していただければ、文化財課さんの方で地区会長さんなど地域の方々と話し合うこともができると思うので、まずは相談していただくことが大事。

原田委員：ありがとうございます

高橋部会長：全体の項目の中にないな、と思っているのが、資料の貸し出しとか他館への展示協力とか、特別利用とか。学校連携ということで大学が利用したというのは入っているが、普通の特別利用とかあると思うが、次の3年間の時にその項目があった方がいいのかな、と。調査の成果とも絡んでくる。学校の郷土資料室の支援なんかも学芸員のマンパワーをどう活用したか、調査の成果がどう活用されたのか分かると思うので。

実習生は9校となっているが人数は分かるか。

藤川係長：10名です。

高橋部会長：ということは同じ学校から2名いたということか。

藤川係長：そうです。面接結果でそうなった。

- 1 (3) - 1 A9 B1 C0
- 2 A9 B1 C0
- 3 A10 B0 C0
- 4 A10 B0 C0

## 〈2 運営・管理活動〉

### (1)博物館経営の強化

野尻委員：文化財集落施設協議会の幹事だったということだが、具体的にはどういった会合を行っているのか。

阿波園長：文化財集落施設協議会とは、野外博物館の全国的な連携のネットワークを持った会議である。野外博物館固有の課題を協議事項として意見を募集し、当日協議会の中で、自分の館ではこのようなことを行っているなどの質問に対する説明をしてもらい、情報の共有を行っている。また、次回開催や管理について決定している。

菅野委員：市の職員の研修があるが、庁外の研修としてはどのようなところに派遣しているのか。また、計画では催事等のリリースと書いてあるが、実績にはなく、今後の課題のところにある。マスコミ対応をどうしたのかを聞きたい。

阿波園長：県の博物館協会の研修などの募集があれば、基本的に参加するよということ、市の職員は1回以上になっているが、学芸員は8回や9回参加している人もいる。全体としては、最近はオンラインで研修があり、職場でも研修が受けられることを利用して、受けている。

藤川係長：催事等のリリースと計画には書いたが、実績ではチラシやポスターの作成と発送となっている。ここがリンクしてくる。ただ、マスコミに対してのリリースはもう少しできると思い、課題にしている。

菅野委員：実績としての催事チラシやポスターの発送の送り先は、市の公共施設や他の博物館か。

藤川係長：他の博物館は民家園の場合発送はしていないが、市内の他の施設、市民館などに送っていたと思う。

高橋部会長：民家園は全国区なのに、広報は川崎市限定が多いのが残念。県博協が出しているものなどは逐次出しているのか。

関主任：県博協が毎月出している「博物館研究」とWEBの「おでかけガイド」には、企画展に関するものを提出して載せてもらっている。どれくらい反響があるのかは測れないが、出している。

高橋部会長：報道発表はしているのか。

藤川係長：報道掲示板とあって、報道の方が見て、興味があれば連絡してもらおうという形になっている。個別での報道発表は今年行わなかった。

菅野委員：市役所の記者クラブなどに情報を投げ込むスペースはないのか。

阿波園長：ある。来年度は世界遺産登録に関連して五箇山の企画展に関して計画がある。

高橋部会長：無料でやってくれるところもある。特に今はオンラインで、メールなどで申請もできるので、ぜひ川崎以外にも広げてほしい。

服部委員：ジェイコムは利用しているのか。表記がなかった。地域は狭いと思うが利用しているということか。

関主任：しています。

2 (1) - 1 A1 B9 C0

2 A1 B9 C0

## (2) 利用者の利便性・安全性の向上

大泉委員：道の整備について。今後、すべての道が舗装される予定なのか。作田家から高倉までの道は未舗装の道で急な坂だが、今後どうなるのか。

阿波園長：そこは園路の警戒箇所にはなっている。崖は見回り対象になっているが、舗装自

体はどこまで行くか検討中。完全に舗装してしまうと民家園の良さを失ってしまうという意見もある。ぬくもりを感じられる土系舗装についても検討している。未舗装箇所に関しては順を追ってなくすように予定を組んでいる。

原田委員：来園者サービスの今後の課題のところに真夏の猛暑への対応検討がある。今年度の計画の中で日差しを避ける場所の確保が難しかったということだと思うが、最新は公共施設でミストシャワーを設置するところも多くなってきている。今後の具体的な対応を知りたい。

阿波園長：まず真夏の猛暑対策は野外博物館共通の大きな課題になっている。民家園としては伝統工芸館では電気設備改修の設計段階で、藍染の工房も含めてクーラーを入れられるように抜本的な改善を計画している。また、作田家前にはベンチと屋根が設置され、自販機もあるので水分補給が可能になっている。猛暑対策については全国文化財集落施設協議会の中でも情報を集めたが、有効な対策がない状況で、ミストシャワーに関しては古民家との兼ね合いもあるので、設置場所等も含めて今後の課題としている。

大野副部長：危機管理のところで、防災訓練年4回が目標で、実際に4回実施している。全国的にみると年4回は多く、年1回のところが多いと思う。今年度も奈良で重要文化財民家が火災にあっているので、訓練はやりすぎということはない。年6回やってAになるくらいで良い。

菅野委員：休憩場所としてあづまやが北村家にあったと思うが、今も使えるのか。

葉山係長：現在北村家は屋根の葺き替え工事をしていて、庭に入れられない状態になっている。今回屋根葺き替え工事に合わせて、休憩所の雨漏り対応や改修を予定している。

菅野委員：園内全体で休憩場所のベンチのリニューアルを進めていたと思うが、だいたいどこまで進んでいるのか。

阿波園長：作田家には休憩所とは別に竹垣のところにベンチを設置するなど、なるべく座れる場所を多くするように進めている。

菅野委員：キャッシュレス決済の問題点としてはどのようなことが上がってきたのか。また、危険箇所の点検をしていて該当した箇所にはどのように対応したのか。

藤川係長：キャッシュレス決済は昨年度の途中から導入した。園内の電波状況が悪い関係で端末の接続がうまくいかないということが年に何回もあり、不具合として報告があった。ただ、概ね使えているようで、キャッシュレス決済の比率が30%程度となっているので、やってよかったと思う。

阿波園長：危険箇所に関しては、対策を含む話でもあるので、工事を担当する生田緑地整備事務所と連携して確認を行っている。来年度、民家園の奥門で対策工事の設計等を予定している。

藤川係長：支障木という倒れそうな木に関して、こちらは指定管理の業務だが、専門家に見てもらって切っている

2 (2) - 1 A6 B4 C0  
2 A0 B10 C0

高橋部会長：一通り評価は終わったが、最後になにか質問等ありますか。

野尻委員：6年度の外国人入園者数の実績は3割ほど上がっているが、それに比べて総入園者数は抑制気味になっている。インバウンド対応というものがあつたが、総入園者数が抑制されていることに関してはどう考えたら良いのか。

阿波園長：外国人入園者数に対して総入園者数が上がっていない。7月から10月に昨年の数字を割っている。これは、神奈川県の中熱症警戒アラート発生件数が2024年度は37回あり、2023年度は21回、2022年度は10回あった。年々日数が増えている。今年度は10月も暑かったなのでその影響を受けているのではないか。その他の月では数字は増加している。外国人入園者に関しては夏でも関係なく、基本的に来ると決めたら来るので上がっている。総入園者数は夏場の影響を受けて減っていると思う。

高橋部会長：令和7年度の目標を作っていると思うが、現状をふまえて総入園者数の伸び率よりも外国人入園者数の伸び率を多く見積もるなどというような考えはあるか。

阿波園長：外国人入園者数は相当伸びているので、これをふまえた形にするべきだと考えている。総入園者数に関しては、天候は予想できないので、当初の予定通り頑張っていきたい。

高橋部会長：博物館の登録申請についてはどう考えているのか。

阿波園長：博物館法改正の経過期間となっているので、登録を目指して来年度の目標に挙げたい。書類が整い次第提出して、登録博物館を目指していきたい。

8 今後の予定について

9 退任委員の挨拶

柴田委員(炉端の会会長交代による退任)

〈閉会〉